

令和 4 年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 4 年 8 月 18 日作成

敬和学園大学

子どもが安心して生きられる社会って？

～子どもの権利条約を手がかりにして考える～

1：本ワークショップの要旨

「皆でより良く生きることができる環境」とはどのようなものか。

本ワークショップでは、ディスカッションなどの対話を取り入れながら生徒に子どもの権利条約について考えてもらう。ワークショップの導入部分のファシリテーター間の対話で日本と中国の違いについて生徒に学んでもらう。また、ワークショップ内でディスカッションの場を設けることで生徒が自分には意見を言う権利があるのだと自覚できるようにする。ディスカッションではファシリテーターが生徒へ問いかけをして、生徒が自ら子どもの権利について考えられる場を設ける。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

- ・生徒が自分の権利を知り、自分の権利を守れるようになる。
- ・自分や友だちが困っているときに大人に声を上げて助けを求められるようになる。
- ・ワークショップできちんと自分の意見を言えるのが自分の権利を守っているということを学んでもらう。
- ・日本で子どもの権利が守られていない事例、外国で子どもの権利が守られていない事例を学んでもらう。

3：本トピックをとりあげる理由

現在、日本では学校内のいじめや家庭内の貧困問題、家族からの虐待などで子どもの権利を侵害されている子どもが数多くいる。また、外国でも少年兵や児童労働(日本が賛成をしている背景には子どもが労働に駆り出される現状がある)などで子どもの権利を侵害されている子どもが多い。また、困っている時に大人に助けを求めることができず、悩んでいる子どももいる。本ワークショップでは、生徒が権利が守られていない現状や子どもの権利を知り、自分たちの権利を守る、困った時に大人に助けを求めるということを学んでもらいたい。

4 : 活動過程

(使用時間 : 90 分

参加人数 : 13 人)

過 程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	その他注意事項
導 入 : 起 (____ 分)	アイスブレイク 自己紹介 (ファシリテーターの自己紹介と生徒の自己紹介を行う) お題を出して、自分だったらそのお題に対してどのように答えるかを生徒に考えてもらう。 導入 チョウカンさんは日本に来て驚いたことを話す。 徳永がカンさんの話を聞いて	「みなさんこんにちは！ 私たちは新発田市にある敬和学園大学から来ました。国際交流ファシリテーターです。」 ファシリテーターが先に自己紹介をする。 フルネーム→活動中に呼んでほしい名前 次に生徒が自己紹介をする。 フルネーム→活動中に呼んでほしい名前	ファシリテーターと生徒の間の緊張をほぐすこと ファシリテーターと生徒の間の仲を深める。 ファシリテーターと生徒がお互いのことをどのような人物なのか理解する。		生徒もワークショップの活動中に呼んでほしい名前を言う。 中国の子どもの現状 ・ 児童誘拐 ・ 一人っ子政策の影響 (男の子をほしがるため、女の子は

	て驚いたことを話す。 (対話形式) 中国の問題、 日本の問題を 紹介し合う。				遺棄される、社会調整による政府の子供販売産業チェーン) ・子どもが一人では街を歩けない (中国は車優先なので子どもの安全確保が難しい) ・戸籍制度による left-behind children
--	--	--	--	--	---

展 開 : 承 (____ 分)	前半の対話会 (discussion) 日本の不安要素について意見を出し合う。 子ども権利条約の内容を紹介 権利を侵害された時にはアドボカシー（自分から声を上げてもいい）、信頼できる大人に言うことなどを伝える。 SDGs との関連、2030 年までの達成目標などについても説明する。	生徒への問いかけ 「みんなは他の国の子供に関するニュースや自分で体験したことなどで驚いたことはありますか？」 「日本の子どもの現状はどうでしょうか？」	ワークショ ップできち んと自分の 意見を言え るのが自分 の意見と言 う権利を守 っているこ とを生徒に 伝えたい。 権利を侵害された時に声を上げられるようになってほしい。	スライド	日本社会での不安要素 ・ 家庭内の問題（貧困、親からの虐待、暴力など） ・ 学校内の問題（いじめなど） ・ 外国籍学生を支援するシステムが不十分 ・ 災害を体験した子どもの心のケアが不十分 ・ LGBTQ
------------------------------	--	--	---	-------------	---

発 展 : 転 (____ 分)	後半の対話会 (discussion) 自分や身近な人が人権侵害にあった時にどうするのか、何ができるのか意見交換をする。 外部機関などに声を上げる方法があることを伝えながら対話を進める。		ワークショップで自分はどういう権利を持っているのかを生徒がきちんと理解できるようにしたい。 困った時に生徒が自分の権利を守れるようにしたい。		
まとめ : 結 (____ 分)	フリートーク ワークショップで生徒は何か疑問に思ったことがあったら大学生に質問する。 ワークショップ以外でフリーに質問しても良い。				生徒から質問がない場合、自分で見たり聞いたりした経験について話してもらおう。

5：新型コロナウイルス感染症拡大防止のための工夫や留意点

- ・マスクの着用
- ・手指の消毒
- ・ソーシャルディスタンスを保つ
- ・換気をする
- ・休憩中はこまめに水分を取る

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

スライド

パソコン

7：使用する教材

- ・パワーポイント（パソコン、スクリーン）

8：参考にした資料

- ・子ども六法
- ・世界の子どもの権利カルタ
- ・きかせてあなたのきもち 子どもの権利って知ってる？
- ・みんなで平等をつくる
- ・子どもアドボカシーと当事者参画のモヤモヤとこれから
- ・世界中の子どもの権利をまもる 30 の方法

9：その他

・パワーポイントを使ったワークショップになるので、パソコンやスライドを使用できる環境を用意していただきたいです。

- ・その他の不明な点に関しましては、事前打ち合わせの際に確認したいと考えています。